芭蕉元禄事業　奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年十一度　入選句（投稿総数二千五百七十一句・小中学投句数千六百七十一句）

選者　説田　祐子

特選

どこまでも行ける気がする秋の空　大垣市　上垣　采椰（中一）

作者は中学一年生。高く澄みきった秋空の下を下校しているのでしょうか。それとも休みの日、どこかにハイキングにでも出かけたのでしょうか。いつ、どこで、周りの様子はどうだったかとは書いていませんが「どこまでも行ける気がする」と自分の心情を書いていることから辺りにも秋がいっぱい来ていることが想像できます。読者にもそんな情景の中でそんな気持ちになったことがあるなと共感できる俳句です。

おちばがねちらちらおちるパーだして　大垣市　小林　和花子（小一）

落葉の季節です。あの木からもこの木からも落葉がちらちらとおちる。ここまでは誰もがよく口にする言葉です。その落ちてくる葉の一枚一枚をよく見て「パーだして」とじゃんけんのパーに見立てた言い表し方が面白いですね。そういえばもみじでもいちょうの葉でもけやきの葉でもみんな開いていて「じゃんけんのパー」のようになっていますね。

遊び心が入った楽しい俳句です。

ピッチャーがガッツポーズだ秋の空　大垣市　傍島　倫（小四）

スポーツの秋。作者は野球少年団に所属し他の団体と試合をしたのでしょうか。味方のピッチャーの一球で危機を乗り越えることができた。ひょっとしたら優勝につながる一球だったのでしょうか。ピッチャーの一球一球に祈りをも込めてともに戦ってきたからこそピッチャーのガッツポーズが自分のことのように嬉しかったのでしょう。貴重な体験からできた一句です。

秀逸

おつきさまくもにかくれてかくれんぼ　大垣市　いわた　りこ（小一）

よくみてるさんまをほしがるねこ達よ　大垣市　林　万葉（小六）

法隆寺とうから広がる秋の空　大垣市　神徳　和響（小六）

どんぐりがあそぼあそぼとよんでいる　大垣市　すみかま　れいあ（小一）

体育祭くつひもつよくしめ直す　大垣市　早野　龍希（中一）

組み立てでポーズが決まった秋の空　大垣市　小野木　笑花（小五）

秋刀魚焼くにおいが家族をよんできた　大垣市　宇納　壱心（小五）

秋の空チームでつかんだ優勝旗　大垣市　木村　優太（小五）

いねかりだ田んぼが空っぽさみしいな　大垣市　内藤　義貴（小四）

汽車みたいみんなつながる白い息　大垣市　ひろせ　りょうが（小四）

入選

秋の山いろとりどりの木がゆれる　大垣市　齋藤　優衣（小四）

ぼくの手にひらりと落ちるもみじの葉　大垣市　小川　弘貴（小六）

虫たちがかくれながらも演奏会　大垣市　加藤　一愛（小六）

学校に歩いていこう秋風と　大垣市　山根　早智（小六）

ひまわりはみんなのえがおひろげるよ　大垣市　河合　玲奈（小三）

ひまわりが太陽向いてほほえむよ　大垣市　北島　侑奈（小六）

赤とんぼ夕やけの空染めていく　大垣市　立川　公希（中一）

暮の秋寂しく木の葉舞っている　大垣市　榎並　美月（小六）

秋の山あさつゆのんであいうえお　大垣市　奥田　昂司（小二）

アキアカネ空の真下でデートする　大垣市　松井　悠斗（小五）

入選

落葉たち空のぶたいでまいおどる　大垣市　岩永　芽生（小五）

林檎切る母のすがたがにあってる　美濃加茂市　平野　楓馬（中二）

あきのそらうんどうかいをまっている　大垣市　さかぐち　みわ（小一）

もみじのはいちょうのはっぱとあそんでる　大垣市　あべ　えみゆ（小一）

いもほりでもぐらになってほりあてた　大垣市　大かわ　あんり（小一）

あかとんぼゆうやけおよぐおにごっこ　大垣市　あらい　日葵（小二）

妹のどんぐりひろう小さな手　大垣市　棚橋　万桜（小三）

もみじさんおけしょうできておひろめだ　大垣市　田中　愛美（小四）

あるくたびかれはの音がひびいてる　大垣市　谷藤　夕月（小四）

鹿苑寺秋の川からうつり出す　大垣市　長瀬　冬雪（小六）

選者吟

時雨るや登校班は一直線　祐子